



自分で考え 自分で作り 自分で使う
 忘れかけていた日本の文化を体験する
 そんな取組がはじまりました



『MY SUZURI』運動立ち上げ

2016年11月、仙台で開催される第69回全国造形教育研究大会におけるメインテーマとして“復興と造形教育”がコンセプトの中心の一つとしてあげられています。去る2011年3月11日、宮城県石巻市にある日本古来、有数の石の町、硯の町として“石の文化”を伝えてきた雄勝町が津波により破壊的打撃を受けました。そのような中で来年仙台で開催される全国大会において、メインスピーカーとしての研究発表を私の母校である仙台市立南材木町小学校を通し依頼されました。私自身、永年、世界の石文化の中心、イタリアにて石の彫刻家として仕事をしてきましたが、この度このような機会に故郷が誇る日本の石文化の町、雄勝の復興と硯、墨、筆に代表される日本古来の文化再考を兼ね、子ども達を中心とした幅広い方々と共に“石とのふれあい”“生活の中での石”“日本文化の中での石”というテーマで、雄勝の石職人さんたちの協力のもと、“MY SUZURI”（私が考え作った硯、一生の思い出となる硯）運動を立ち上げたいと思います。さらに、これをきっかけとして、教育の中に於ける日本文化の重要性、役割などを語り合えることができればと願っています。

2015年8月 ローマにて
 彫刻家・画家 武藤順九

『my硯』体験 2015年8月22日・10月17日 資料提供：仙台市立南材木町小学校



宮城県石巻市雄勝町の仮設商店街にある硯組合
 硯組合の方の説明を聞く児童たち
 雄勝石の切断を体験
 職人さんの仕事の様子を見学
 雄勝石の特徴を説明する武藤順九氏
 自分の考えたデザインに合わせて石を彫っていく
 武藤順九氏から『my硯』への熱い思いが語られた
 みんなで記念撮影して硯組合での体験は終了
 職人さんが粗彫りした硯が、後日学校に届けられた
 いろいろなカタチの硯が生まれた
 「磨き」の道具と手順が説明される
 時々洗ひながら、砥石と紙ヤスリを使って磨いていく



みんな仕上げの作業に夢中
 ついに『my硯』が完成
 『my硯』で墨を磨り、9メートルの巻紙に墨絵を描いていく
 葉っぱをモチーフに、自由に描かれた巻紙をみんなで観賞
 『my硯』で描いた墨絵は、一生の宝物
 この貴重な体験が日本の文化を継承していく

学ぶ 遊ぶ 充実の体験

できるかな
 マイ雄勝硯
 仙台の児童、石巻で手作り

仙台市南材木町小の児童らが22日、石巻市雄勝町の雄勝硯（すずり）作業所で、硯作りを体験した。同小O.Bでローマ在住の彫刻家武藤順九さんが雄勝石に關わっていた縁で企画した。

児童をはじめ、仙台市小学校教育研究会（図画工作部会長）の横山美喜子南材木町小学校長ら部会員、保護者ら計34人が参加した。

雄勝硯生産販売協同組合の千葉隆志事務局長の説明後、武藤さんの助言で「マイ硯」を作る原石を選び、手のひら大の原石にヤスリで名前を刻んだり、彫刻刀で形を彫ったりした。5年の大宮一君君（11）は「石の形を生かし富士山のような硯にする。頂上に墨を入れるくぼみを作る。完成が楽しみ」と話した。

硯作りは10月17日に校内でも行い、硯組合員から指導を受けて完成させる。成果は来年11月に真内で開催される全国造形教育研究大会で発表する。

2015年8月24日：河北新報